

(ウ) 教科プランの改訂
 〈3年生の国語科の修正の一部〉

	4 月	9 月
授業	<ul style="list-style-type: none"> 先生や友だちの話を注意深く聞き大切な言葉を聞き取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生や友だちの話を注意深く全員が聞き取れるようにする。

〈2年生の算数科の修正の一部〉

	4 月	9 月
授業	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決の時間を確保し、解決できるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決の時間を確保し、個に応じた支援とする。

③ 教科プラン作成の成果と課題

	国 語 科	算 数 科
成果	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に、新担任が前年度のNRTテストを分析し、実態の把握から課題を見出し、年間を見通した指導方針を明確にする教科プランを作成した。これは、各単元プラン作成にあたり土台となるものであり、教師はプランを意識し、その実践を日々の授業に生かすことに有効であった。 	
具体的な成果	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標と基礎・基本の定着を結びつけて考えたことにより、実践の視点を明らかにできた。 種々のテストや実態把握により、個に応じた支援ができた。 日々の実践により、児童の国語に対する興味や意欲が増し、文章読解や文章表現力がついてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 実践の視点を明らかにし、自力解決学習と定着の時間の確保に努めた結果、基礎・基本の定着が図れるようになってきた。 実態を踏まえた支援やT・Tの効果的導入で、下位児童の理解力がつき、意欲が出てきた。 自己評価を授業に生かすことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 教科プランは、1学期末に修正し、改善・開発を図ってきたが、さらに活用できるプランにするために、児童の変容に応じて学年・学級で随時修正され、単元や本時の指導計画に反映されることが大切である。 	
具体的な課題	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本が身につけていない児童に対しては、さらに詳しく具体的実践内容を明らかにし、実践する。 テストの結果にあらわれない児童の情意面を、さらに大切にしていける。 話し合いの基礎を身につけさせ、お互いに読みの深まりができるように学習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算力を向上させるため、時間の確保や個別指導に努める。 自力解決の場を大切にし、自分の考えをしっかりと表現できるように学習訓練を重ねる。 テストを生かし、劣る領域については、継続・反復練習により定着を図るようにする。 自己評価を活用し、下位・上位児童をさらに支援する。